



差別をなくすために

もう差別はなくなつたのか

一人ひとりの人権が尊重され、豊かで明るく住みよい社会の実現をみんなが望んでいます。「差別をしてはいけない」ということは誰もが知っていることです。

そうした中で、「私は差別していいから関係ない」「部落差別はもうなくなつたのではないか」という声を聞くことがあります。

しかし、私たちはそれが差別であることに気づかないで、周りの人々を傷つけていることはないでしょうか。

例えば、日常生活の中で、偏見や先入観などをもとに、人に対して不平等に接することはありませんか。あるいは自分に対して理由もなく差別的な扱いを受けたことはありませんか。

そうしたことに気づく力を身につけていくために同和問題をはじめとする、様々な人権問題についての学習の場として人権啓発講座・講演会

等があります。

学習会に参加しよう

差別に悩む人の中には自らの悩みを誰にも相談できず、不安を持ちながら暮らしている人がいます。自分ひとりだけで考えていると、見えてこないことや思い込んでしまうことがあります。

一方で、人権尊重を願う人や、人権問題を自らの課題として捉え、差別をなくしたいと行動している人もいます。

学習会・講演会等では、様々な人の話を聞き、知識を広げることによって自分の考え方や行動について見直したり、再確認することができます。

一人ひとりが、かけがえのない大



人権啓発講座の様子

切な存在です。差別の現状を正しく知り、差別を見抜く力をつけ、すべての人が住んでよかったと思えるまちづくりを積極的に進めましょう。

現代の差別について

差別は時代と共に変化し、以前にはなかったインターネットによる情報通信で、匿名性を悪用した差別事象などが起こっています。

あらゆる差別を許さない、また、その被害に苦しむ人を救済する社会システムの確立が求められています。

自分の課題として捉える

現代社会では、自分に差別は関係ないと思っていた人でも、問題に巻き込まれる可能性があります。私たち一人ひとりが、人権問題を自分たちの課題として捉え、様々な学習機会を通して話し合い、わかりあうことがとても大切です。

竹原市人権センターでは生活相談をはじめ、様々な人権問題についての相談を常時受付けています。お気軽にご相談ください。

相談窓口

人権センター

月～金曜日(祝日・年末年始を除く)
8時30分～17時15分

☎ 22-13726

9月24日～30日は結核予防週間です

「体がだるい?」「咳が治らない?」それは、結核かもしれません。風邪と結核は症状が似ています。2週間以上咳や痰が続く場合は、お医者さんにきちんと診てもらいましょう。



問い合わせ 保健センター ☎ 22-7157

9月10日～16日は自殺予防週間です

まずは声をかけ合うことから始めてみましょう。

- ①家族や仲間の変化に気づいて声をかける。
- ②本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。
- ③早めに専門家に相談するよう促す。
- ④温かく寄り添いながらじっくりと見守る。



問い合わせ 保健センター ☎ 22-7157